

# 青年 HIV 陽性者のリプロダクティブヘルスケアモデルの開発

大川 純代

東京大学大学院医学系研究科 国際地域保健学教室 客員研究員  
(助成時：東京大学大学院医学系研究科 国際地域保健学教室 特任研究員)

## 【ポスター1】

ザンビア共和国は、南アフリカから飛行機で2時間ほど飛んだアフリカの南部にある国ですが、HIV感染者が大変多く、最新のデータによりますと、15歳から49歳までの成人の12.4%が感染していると言われています。

本研究は、特に子どもや若い人にフォーカスしました。近年、HIVの治療薬が随分と普及することによって、母子感染した子どもたちの多くが思春期や青年期を迎えるようになりました。以前までは「とにかく命を助

ける」ということを優先課題とし、治療が提供されてきたのですが、そういった子どもたちが大きくなってきましたので、「HIVとともにいかに生きていくか」ということが、今、大切な課題となっています。しかし、それらの課題に対するケアはまだ行き届いていない状況です。その中で、リプロダクティブヘルスは、特に大きな課題の一つです。

そこで、本研究では二つの目的を挙げました。

まず一つ目は、青年HIV陽性者がリプロダクティブヘルスに関して直面している課題を明らかにする。

二つ目は、彼らと、HIV治療ケアに従事する医療者が共同でリプロダクティブヘルスケアのモデルを開発することを試みる。

この二つを目的としました。

## 【ポスター2】

まず、目的1に関しては、現状調査を実施しました。

混合研究法を用いて、昨年5月から7月にかけて、ザンビアの3カ所にて調査を行いました。

調査地の一つ目は、首都ルサカ市のザンビア大学附属の大学教育病院でした。そして、二つ目は首都から1

## ポスター1

### 背景と目的

- ザンビア共和国はHIV感染者が多く、2016年の15-49才の有病率は12.4%だった。
- 母子感染した子どもたちの多くが思春期、青年期に入ってきている。
- 「ただ生きる」ではなく、「HIVとともにどのように生きるか」という時代に入り、リプロダクティブヘルスは大きな課題の一つである。
- 目的
  - 青年HIV陽性者がリプロダクティブヘルスに関して直面している課題を明らかにする。
  - 青年HIV陽性者とHIV治療ケアに従事する医療者によるリプロダクティブヘルスケアモデルの共同開発を試みる。

## ポスター2

### 研究内容. 現状調査

- デザイン: 混合研究法
- 調査期間: 2016年5-7月
- 対象地: ルサカ市(大学教育病院)、チョングエ郡およびルンサ郡の医療施設

	質問票調査	フォーカス・グループ・ディスカッション	インデプス・インタビュー
対象者	15-24歳 HIV陽性者	15-24歳 HIV陽性者	20-29歳 HIV陽性者
対象者数	324	76	14
対象地	全3カ所	ルサカのみ	ルサカのみ

統計分析

主題分析

時間ほど離れたチョングエ郡という少し田舎の所と、三つ目はさらに3時間から4時間離れたルフンサ郡という所で、HIVの治療ケアを提供する医療施設にて実施しました。

混合研究方法ということで、主に三つの調査を実施しました。

一つは質問票調査です。15歳から24歳の思春期から青年前期のHIV陽性者を対象に、324人に回答していただきました。データはこの3カ所で収集し、統計的に分析しました。

もう一つの調査は質的研究でした。フォーカス・グループ・ディスカッションを大学病院で行いました。10組のグループを作って、グループディスカッションを行いました。

もう一つは、インデプス・インタビューを実施しました。これは、一対一でインタビューし、質問を深く掘り下げ回答を得るというものです。対象者は少し年齢層を上げました。なぜかという、リプロダクティブヘルスの課題に関する具体的な経験を調査したかったので、婚約や結婚を予定しているパートナーがいる人にインタビューをしました。

### 【ポスター3】

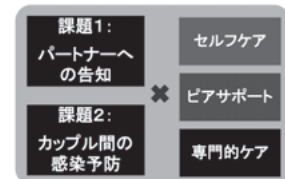
二つ目の目的であるケアモデルの開発に関しては、昨年11月5日、ちょうど1年ほど前ですが、ワークショップを開催しました。

対象者は、調査に参加した青年HIV陽性者の約80名と医療従事者27名でした。ワークショップでは、調査の結果を公表し、結果の中で優先課題として挙げたパートナーへの告知、そしてカップル間でのHIVの感染予防に関して、セルフケアレベル、ピアサポートレベル、そして医療者による専門的ケアレベルでできることは何かということ話し合う二部構成にしました。

### ポスター 3

#### 研究内容. ケアモデルの開発

- 2016年11月5日、ワークショップを開催
- 対象者: 調査に参加した青年HIV陽性者80人、HIV治療ケアに従事する医療者27人
- リプロダクティブヘルスの2大課題と、それに対応するケアを3段階で検討



### 【ポスター4】

結果です。まず質問票調査の結果です。四つの不安に関して、10代と20代の参加者に分けてパーセンテージで表したものです。

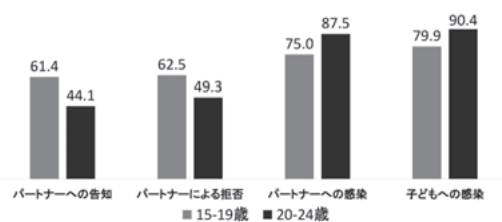
始めの二つは、パートナーに告知することに関して不安がある人、告知の後パートナーに拒否されるのではないかということに関して不安がある人が、10代では約6割、20代では4割いて、10代のほうが有意に高いという結果が出ました。

次の二つは、パートナーへの感染

### ポスター 4

#### 結果

##### 1. 青年HIV陽性者が抱える不安(%) (n=320)



と、将来自分たちが産む子どもへの感染について不安があると答えた人の数をパーセンテージで表したものです。10代では7割・8割近く、そして20代になりますとぐっと高くなって、9割前後の人が不安があると回答しました。

### 【ポスター5】

こちらは、実際パートナーに告知してみてもうどうだったかということについての結果です。

「付き合っているパートナーに自分のHIVステータスを告知したことがある」ということに関してですが、まず「交際したことがある」ということについては54%の人が「ある」と回答しました。そのうち、「自分のHIVステータスを告知したことがある」と答えた人が約6割でした。その結果、パートナーに拒否されたという経験がある人が約3割でした。

さらに、パートナーとの関係性について詳しく調べてみました。

まず、「性行為をしたことがある」と回答した人は少なくとも40%いました。その中で、パートナーと一緒に妊娠のリスクや妊娠について話し合ったことがある人は約60%、パートナーにコンドームの使用について交渉したことがある人は77%、パートナーとHIVの感染について話し合ったことがある人は78%でした。

ここまでは数値的なデータです。

### 【ポスター6】

続いて質的なデータを分析しました。

パートナーへの告知に関する条件について、告知するまでにどんな準備をしているのか、そして実際告知をしたらどうだったかということ进行分析しました。

これは主題分析の結果です。まず、パートナーとの信頼関係についてとてもよく考えていることがわかりました。交際期間、パートナーがどんな人であるかということをよく観察することが大切である。それから、パートナーがHIVに対して理解的な態度を持っているか把握することが大切である。例えば、「クイズで間接的に調べる」と書いてありますが、これは、「もし家族が、友達が、ボー

### ポスター 5

#### 結果

##### 2. 青年HIV陽性者の告知経験

全体のうち (n=324)、交際したことがある	177 (54.6%)
交際経験がある者のうち (n=177)、告知したことがある	107 (60.5%)
告知経験がある者のうち (n=107)、拒否されたことがある	32 (29.9%)

##### 3. 青年HIV陽性者のパートナーとの関係性

性行為をしたことがある	133 (41.1%)
性行為をしたことがあると回答した者のうち (n=133)	
パートナーと妊娠について話し合ったことがある	80 (60.2%)
パートナーにコンドームの使用を交渉したことがある	103 (77.4%)
パートナーとHIVの感染リスクについて話し合ったことがある	104 (78.2%)

### ポスター 6

#### 結果

##### ■ パートナーへの告知に関する条件

- ・ パートナーとの信頼関係: 交際期間、パートナーの人格
- ・ パートナーのHIVに対する理解的態度: クイズで間接的に調べる
- ・ 告知の準備: タイミング、場所、内容
- ・ パートナーのいかなる反応も受容する心の準備

##### ■ パートナーの告知後の反応に関する実体験

- ・ 拒否的反応と支援的反応を経験した
- ・ 過去のパートナーの反応が、今後のパートナーに告知するかどうかの決定に影響を与えている

##### ■ 結婚や出産に関する意思に影響する要因

- ・ 予防・治療に関する知識
- ・ 実際に結婚・出産したHIV陽性者の体験に関する情報

イフレンド・ガールフレンドがHIV陽性だったら、あなたどうする？」というようなクイズを通して、パートナーがどんなふうにHIVに対して考えているのかを探っていき、前向きにHIVを受け止めているようだったら、自分のHIVステータスを告知する準備をしていく。そういった実践が多く報告されました。

また、パートナーの反応は、よい反応、悪い反応の場合がありますから、それを受け止める心の準備も大切であるという発言もありました。

では、実際、告知した後どうだったかといいますと、拒否的な態度を取られた場合と、支援的な反応をしてくれた場合があるという回答が得られました。

そして、そういった経験が、次の付き合いや次に告知する時にどうすればいいかという判断、決定に大きく影響していることが分かりました。

それから、結婚や出産に対してどのように感じているかということについては、予防や治療に関する知識を持っている青年は、「大丈夫、自分たちだってみんなと同じように結婚・出産できる」と信じている人が多く、身近なところやテレビ、メディア等でHIVに感染していながらも結婚・出産したことがある人たちの実例を知っている青年は、結婚や出産に対して前向きな考えを持っているようでした。

【ポスター7】

これはワークショップの様子を写真で示したものです。

まずピアエデュケーターという研究のアシスタントとして働いてくれた子たちのリーダーが、調査結果をみんなにフィードバックしました。それから、あるHIV陽性者の方とそのパートナーが、具体的にどのように、交際をしているかということを講演しました。そして、告知や感染予防の課題に関するグループワークをして、グループごとに発表して、医療従事者と活発に議論をしました。時にはこんなふうに、みんなで大笑いすることもありましたが、アクティブに話し合って今後の方向性を検討しました。

【ポスター8】

この他にも、若者がとても積極的に本研究の活動に参加してくれました。アウトリーチで、ルサカからチョングエのピアグループの集会に行っ

ポスター7



ポスター8



ような冊子にまとめたりもしました。

### 【ポスター9】

本研究のまとめです。

青年HIV陽性者のリプロダクティブヘルスの課題は広範囲に及び、年齢によっても変化していくことがわかりました。

そして、今後必要な取り組みとして三つ挙げました。

まずは、青年各自がセルフケアの知識や能力を身につけていく。とは言え、大変な中で暮らしていますので、ピアサポート、つまり仲間同士のサポートを通して困難や悩みを共有し、

互いにエンパワーしていく。最後に、青年たちがケアのガイドライン作りやケアの質の評価に参加できるような仕組みを作っていく。それらが大切であるとまとめました。

### ポスター 9

#### まとめ

- 青年HIV陽性者のリプロダクティブヘルスの課題は、広範囲に及ぶ。課題は、年齢に応じて変化する。
- 今後必要な取り組み
  - ・ 青年各自がセルフケアの知識や能力を身につける。
  - ・ ピアサポートをとおして、困難や悩みを共有し、互いにエンパワーする。
  - ・ 青年がケアのガイドライン作りや、ケアの質の評価に参加する。

## 質疑応答

**会場：** 大変貴重なご発表ありがとうございます。目的の2のリプロダクティブヘルスケアモデルの開発を試みられたということで、何かTIPSになるようなサジェスションと申しますか、そのようなことをいただけたらためになるなと思いました。もしあればお願いいたします。

**大川：** 青年同士で話し合う機会や青年と医療者が話し合う機会が、私が思っていた以上に少なく、そういう機会や仕組みを作ることが大切だと、まず思いました。もう一つは、ガイドラインや参考になるようなマニュアルをいろいろな人、例えば外国の団体などが作っていくのですけれども、それが必ずしも使われているとは限りません。例えば本がすごく分厚く文字だらけだったりすることもあります。そうではなくて、難しい内容である必要はないので、本当に当事者たちの声がぎゅっと反映されたような、分かりやすいガイドライン、そして、自分たちが作った・自分たちが参加したものであるという、そういったガイドラインが作られていくとよいのではないかと思います。

**座長：** この対象者の方たちは、ほとんどもう母子感染でのHIVで、ご自分の性行為で感

染したという人は基本的には含んでいないのですか？ その辺は対象外ですか？

**大川：** 実は、これをはっきりとさせるのはなかなか難しいところです。10代のうちにHIV陽性と分かっている子たちのかなり多くが母子感染であると推測されますが、20代の中でも、子どものときから治療を受けている子たちは恐らく母子感染です。そうではない人たちは性交渉による感染だろうというところまでは推測できますが、はっきりと「いつ感染したか」ということを特定する方法がなく、カルテなどにもそういった情報がないので、本人がどこまで知っているかによって感染経路に関する情報は左右されます。

ただ、本研究の対象者に関してはかなり母子感染の子が多いです。主に小児科の病棟で調査しましたので。ただ、小児科でケアを受けるのは16、7歳ぐらいまでで、それ以降は大人の外来でフォローを受けます。